

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：16201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00929

研究課題名(和文) 荘園景観の歴史過程に関する復元研究

研究課題名(英文) Restoration research on the historical process of manor landscapes

研究代表者

守田 逸人(Morita, Hayato)

香川大学・教育学部・教授

研究者番号：10434250

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本課題では、中世以来の荘園景観や地域構造、習俗や領域観念など地域社会の歴史過程に関する総合的研究を行った。題材として東大寺領伊賀国黒田荘故地(現三重県名張市)、讃岐国善通寺領故地(現香川県善通寺市)を採りあげた。前者については荘の中心地である黒田地区・竜口地区について関係史料の精査と現地調査を行い、荘園景観の復元と中世以来の地域構造の歴史過程を明らかにした。明治期以降に東大寺から散逸した史料の調査も行い、新出史料を発見した。一方、後者については同寺所蔵の荘園絵図などをもとに現地調査を行い荘園景観の復元を行い中世以来の地域構造の歴史過程を明らかにした。善通寺所蔵の中世史料の包括的な調査も行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題では、中世史料の調査と景観復元等を目的とした現地調査が主な活動となった。中世以前の貴重な新出史料の発見は、日本列島の歴史過程を考える上で今後極めて重要な題材となる。一方、史料分析や荘園絵図等の分析、現地調査の成果によって水田景観の広がり方や寺社の形成、独自の習俗・慣行について調査することで、中世以来培われてきた地域社会の成り立ち方について明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文)：In this project, I conducted a comprehensive study on the historical process of local society since the Middle Ages. As subjects, I chose the Todaiji domain, Iga Province Kuroda-no-sho area (present Mie prefecture Nabari city area), and Sanuki Province Zentsuji territory homeland (currently Zentsuji City, Kagawa Prefecture). Regarding the former, I examined the relevant historical materials and conducted field surveys in the Kuroda and Tatsuguchi districts, and clarified the restoration of the manor landscape and the historical process of regional structure since the Middle Ages. I also conducted research on historical materials, and discovered new historical materials. Regarding the latter, I conducted a field survey based on medieval manor illustrations owned by Zentsuji, reconstructed the manor landscape, and clarified the historical process of regional structure since the Middle Ages. I also conducted a comprehensive survey of medieval historical materials held by Zentsuji.

研究分野：日本中世史

キーワード：荘園 地域社会 景観復元 中世史料 荘園絵図 区有文書 現地調査 文化財保護

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1)本研究は2016年度～2018年度に交付を受けた研究活動スタート支援「東大寺領伊賀国黒田荘の景観・その歴史の変遷の復元研究(16H07022)」の研究課題(以下「16H07022」と略す)を継承・発展させたものである。したがって研究課題の背景は「16H07022」とも共通する。

(2)本研究課題の遂行が求められる社会的背景は、戦後の圃場整備事業や開発による著しい環境の変化、さらに最近では人口減少や過疎化、世代交代に伴う地域情報の断絶等、日本列島の社会環境が歴史上かつてないほどに変化しているところにある。こうした動向を受け、中世の荘園景観の復元をはじめとした地域社会の歴史過程を記録して総合的に跡づけ、日本列島の地域社会の成り立ち方を明らかにする。

(3)こうした研究課題の実現に向けた研究環境については、近年歴史地理情報のデータベース集約化やGIS機器の充実、荘園絵図等画像史料の解析能力の革新、『日本荘園絵図聚影 釈文編』(東京大学史料編纂所編、東京大学出版会)をはじめとした荘園絵図史料論の深化など方法論の深化に伴い、従来とは比較にならないほどの効率と精度で前近代地域社会の復元研究が可能となっている。

(4)本研究課題で主要なフィールドとした伊賀国黒田荘故地(三重県名張市)は古代以来、中世を通じて長期にわたり東大寺領荘園として存続したことから、荘園史研究等の分野で多くの研究が出されてきた。しかし同地域が日本列島の地域社会の歴史過程を詳細に跡づけることが可能な荘園故地であるにも関わらず、その周辺域を含めた景観等、現地調査を基にした研究はほとんど行われていない。まさに地域環境が激変しつつある現在、こうした研究課題は急務となっている。「16H07022」においても一部の調査を実現したが、景観復元や地域に遺された史料の調査・把握等未だ多くの課題を残している。

2. 研究の目的

(1)「1. 研究開始当初の背景」と同様、研究の目的の多くも「16H07022」とも共通する。

(2)本研究は、古代～中世に編成されていく荘園景観や地域社会の枠組み全体がどのような歴史過程をたどり現在に至るのか、現地調査によって検証が可能で、奈良時代～現代に至るまでの多くの関係史料を残した伊賀国黒田荘故地を主要なフィールドとして設定した。

同地域は古代～中世にかけて東大寺造営・修造のための巨材を搬出した地域であり、中世以前のあり方については東大寺関係史料として多くの史料が残っている。さらに地域をはじめとして近世以降の史料をも遺っており、史料をもとに現在までの長期的な歴史過程を跡づけることができる日本最古の地域のひとつである。

その一方、東大寺に伝わった関係史料は、多くの史料が明治期以降に散逸している。本研究課題ではそうした散逸史料をも博捜しつつ、古代・中世段階のこの地域のあり方や歴史的位置についての検討を行い、現代に至るまでの歴史的景観をはじめ地域社会の歴史過程をできるだけ詳細に跡づけることを目標とした。本フィールドの長期にわたる歴史過程を明らかにすることは、都市への資源供給地が大都市をどのように支えてきたのか、あるいは日本列島の人々が山林資源とどのように向き合ってきたのか、産業要地と都市との関係について明らかにするという点においても重要な意義がある。

(3)2020年3月以降、地球規模で広がった新型コロナウイルス感染症の影響により、2020～2022年度にかけて主要なフィールドである東大寺領伊賀国黒田荘故地の現地調査の実現が極めて限定的となった。そのため、2020年度以降は補足的なフィールドである讃岐国善通寺領故地に力点をシフトし、史料調査と現地調査を繰り返すことで景観復元や地域構造の変遷など地域社会の歴史過程に関する研究を進めた。このフィールドは研究代表者の居住地に近いこと、混雑を伴う交通機関を利用しない等、コロナ禍のなかでも比較的安全に調査活動を行うことができるからである。善通寺は平安時代以来空海生誕地という所伝を持ち、平安時代以来の伝来史料群を持つ日本列島を代表する地方中核寺院であるものの、同地域の歴史過程を含めて多くの研究課題を残している。主要なフィールドに設定した畿内近郊地域の黒田荘故地との比較検討の素材としてもふさわしいことから、讃岐国善通寺領故地を比較題材として調査・研究を進めた。

3. 研究の方法

(1)「1. 研究開始当初の背景」と同様、研究の方法の多くも「16H07022」とも共通する。

(2)課題遂行の方法は、既知の史料の分析や研究史の見直し等、既存の情報を基にした情報整理・分析と、新出中世史料の博捜等中世史料の調査、現地に遺る近世以降の史料調査、一帯地域の現況確認、聞き取り調査等の調査活動に大別される。

(3)史料調査については、黒田荘故地に関する史料調査と善通寺関係史料の調査に大別される。**黒田荘関係史料の調査** 黒田荘関係史料の場合、東大寺関係史料の把握が最も重要になる。近年『三重県史』等の自治体史が充実した史料集を刊行しており、研究代表者自身の調査等から東大寺に残されている関係史料についてはすでに把握できている。しかし、東大寺から散逸した関係史料の発掘は今後の重要な課題となっている。東大寺に伝来したいわゆる東大寺文書は主に明治期以降大量の文書が各地に散逸しており、東京大学史料編纂所をはじめとする史料の

複製本（影写本）や、史料情報を蓄積する研究機関等で散逸した東大寺文書の情報を集めて史料を収集していく必要がある。さしあたり東京大学史料編纂所等の研究機関の所蔵に帰している史料等の調査を進めた。一方近世以降の史料については、現在も地域社会に伝わる自治会区有文書や名張市立図書館所蔵史資料、地籍図等について現地にて調査活動を行った。

善通寺領関係史料の調査 善通寺関係史料については関係史料を収める善通寺および京都府立京都学・歴彩館等で行った。善通寺は中世以来の史料群を持つ日本列島を代表する地方中核寺院であり、善通寺所蔵の中世史料は中世善通寺領の景観復元に必要な史料となる。しかし史料群については、全体像が明らかになっていないだけでなく、史料の伝来のあり方等包括的な史料研究が行われてこなかった。また中世景観を示す荘園絵図も遺すものの、絵図原本の読解をはじめとして多くの課題を残しているため、こうした点に力点を注いで調査を行った。黒田荘故地と同様、地籍図の調査も行った。

(4)中世景観と復元については、現在の景観を正確に記録しながら分析を進める手順をとることにした。具体的には、まず現地踏査等の方法から耕地のあり方や河川・用水路・池といった水掛かりや、寺院・神社、あるいは城郭・居館跡等の遺跡状況の現況を正確に把握し記録していく。つぎに、明治期の地籍図を用いて近世～明治期の景観復元を行っていく。さらに近世初期の検地帳（太閤検地）や絵図類の分析、中世の検注帳や関係史料を出来るだけ発掘し、それらに現れる様々な情報とあわせながら中世の景観の具体像を復元していくことを目指した。

黒田荘故地については、広大な領域のうち「16H07022」を継承して竜口地区の補充調査、また黒田荘の中心地である黒田地区に的を絞って調査を展開させた。善通寺領故地については、荘園絵図が遺っているため、絵図に記載されているさまざまな情報について現況確認を行った。以上のように本研究では、史料の博搜と現地の現況を正確に記録した上で、そこから時間を遡りながら各段階の史料に新しく出現するものと、それ以前から存続するものを判別して前後の変化を確認し、中世の景観までを復元していくことを視野に作業を行うことにした。景観の歴史過程を復元していくなかでは、産業のあり方や領域的枠組、信仰形態の変遷等地域社会の歴史過程についても跡づけ、各段階での地域社会の成り立ち方についても研究を進めた。

4. 研究成果

(1) 中世史料の調査

東大寺関係史料の調査 黒田荘故地の検討素材となる東大寺文書について、明治期以降に東大寺外に流出した史料の追跡調査を行った。おもな調査対象機関は東京大学史料編纂所等で、所在不明となっていた東大寺旧蔵文書にかかる史料数点を再発見した。

善通寺関係史料の調査 善通寺所蔵文書については、善通寺の多大なご協力を得て中世文書を中心とした善通寺所蔵文書の包括的な調査・撮影を繰り返し行い、中世文書・中世聖教をほぼ全て調査することができた。またそれらの分析により、善通寺文書がどのような経緯で現状の状態に伝来してきたのか、検討を進めることが出来た。成果の一部については研究発表を行った。中世善通寺文書についての調査結果については、詳細な報告書を作成する予定である。

(2) 現地調査

黒田荘故地の現地調査 「16H07022」を継承し、古代以来、南都巨大寺院の造営・修造材料の搬出地となった現名張市竜口・上三谷地区の現地調査を継続した。内容は一帯の石造物・居館跡の調査が中心となった。なお、「16H07022」にて途中段階に止まっていた竜口地区所蔵の区有文書については、今回調査できなかった。一方、黒田荘の中心地である同黒田地区については、自治会の多大なるご協力を得て現段階で保持する区有文書のすべてについて調査することができた。区有文書の内容は近代以降のものが多かったが、この地域を知る上で重要な史資料が多く発見できた。明治初期の土地台帳や地籍図、圃場整備計画図等の存在を明らかにするとともに、全体の目録作成、および重要史料の撮影・記録を行った。記録は研究代表者だけでなく、自治会でも半永久的に保存していく予定である。区有文書等の現地に残された史料については、世代交代が進むこの地域でとくに散逸が危惧される。こうした現地に残された史料の確認・調査・記録は今後の急務となる。

善通寺領故地の現地調査 讃岐国善通寺領の領域全体を描いた「善通寺領絵図」の精査とともに善通寺にて調査した文献史料の情報をも活かしながら、史料上に現れる前近代の地名や在地寺社、集落等の諸情報について、現地に残る通称地名や伝承等の聞き取り調査、地域住民が保存してきた資料等の調査等を行い、得られた多くの情報をGISに登録した。

各段階の地域社会の成り立ちに関する研究成果として代表的なものを1点だけ挙げておく。文献史料の検討よって11世紀後半には善通寺領内五岳山に修行僧の「寄宿」が並び立ち、弘法大師遺跡所として「大窪御寺」（延久3年8月13日讃岐国曼荼羅寺僧善範解案（東寺百合文書二、『平安遺文』4641））が存在し、独自の「聖域」空間が成立していたことを明らかにした。それらの「寄宿」跡や「大窪御寺」跡の検証を行うべく、地名の聞き取り調査や寺院跡の調査を行った。その結果、寺領西堺境界ポイントの三井之江地区所在の「大窪寺」なる寺院跡伝承地の現況調査を行い、古くからこの地点では地域住民の間で大量の大型古瓦等が発見されてきたこと、さらに今回の調査でそれらの古瓦が中世に遡る古瓦であることも確認できた。寺院跡のあり方を明らかにするとともに、史料に現れる「大窪御寺」との関係について今後検討していく必要がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 守田逸人	4. 巻 90
2. 論文標題 香川大学図書館神原文庫と所蔵史料について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 古文書研究	6. 最初と最後の頁 106-115頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 守田逸人	4. 巻 9
2. 論文標題 平安時代後期の讃岐国善通寺・曼荼羅寺地域における「聖域」空間の成立と巡礼僧	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 四国遍路と世界の巡礼	6. 最初と最後の頁 17-24頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 守田逸人	4. 巻 178
2. 論文標題 善通寺伽藍図にみえる結界意識	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 隔月インタビュー	6. 最初と最後の頁 10-12頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 守田逸人
2. 発表標題 中世善通寺領の史実と伝承をあるく
3. 学会等名 日本地理学会大会公開講演（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 守田逸人
2. 発表標題 中世善通寺関係文書の伝来について
3. 学会等名 中世史研究会（名古屋大学）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 守田逸人
2. 発表標題 中世善通寺関係文書の保管・伝来と書写作業
3. 学会等名 四国中世史研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 守田逸人
2. 発表標題 讃岐の中世文書について
3. 学会等名 第12回地下文書研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 守田逸人
2. 発表標題 神原甚造コレクションの成立と古書肆
3. 学会等名 香川大学図書館平成31年度第23回神原文庫資料展特別講演（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 守田逸人
2. 発表標題 主要港町と都鄙関係からみた讃岐地域の中世的編成
3. 学会等名 香川大学 ICED (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 守田逸人
2. 発表標題 神原甚造コレクションの成立とその名品
3. 学会等名 香川大学図書館第23回神原文庫資料展講演会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 守田逸人
2. 発表標題 善通寺伽藍并寺領絵図と周辺地域の歴史過程
3. 学会等名 善通寺市文化遺産推進委員会「てくてくワークショップ」(招待講演)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 守田逸人 (共著)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 336
3. 書名 荘園研究の論点と展望	

1. 著者名 守田逸人・平篤志・寺尾徹（共編）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 432
3. 書名 大学的香川ガイド	

1. 著者名 守田逸人（共著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 608
3. 書名 増補改訂版 日本中世史入門	

1. 著者名 守田逸人（共著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 香川県教育委員会	5. 総ページ数 320
3. 書名 香川の文化財	

1. 著者名 高倉良一（監修）、伊藤裕康・鈴木正行・守田逸人（編）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 美巧社	5. 総ページ数 174
3. 書名 法教育・社会科教育とその周辺	

1. 著者名 守田逸人(共著)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 440
3. 書名 よみがえる荘園	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------